

しょうがくせい みな  
小学生の皆さんへ

にちようび ふ あめ あおぞら ひろ せんじつ どくしょ はなし か あと  
日曜日から降っていた雨がやみ、さわやかな青空が広がっています。先日、読書のお話を書いた後、

ほんだな み あ だいじょうぶ ほん だいめい め だいじょうぶ  
ふと本棚を見上げると、「きっと『大丈夫。』」という本の題名が目にとまりました。「大丈夫!」。これは

かみさま いま わたし かた ことば ちが おも げんき で  
きっと神様が今の私に語りかけてくださった言葉に違いない、そう思うと、とても元気が出てきました。

ほん か しょうにか いしゃ ほそ やりょうた せんせい せんせい しょうに たたか  
この本を書かれたのは、小児科のお医者さんの細谷亮太先生です。先生は小児がんと闘い、たく

さんの子どもたちの病気を治してこられました。そんな先生の愛読書は、「少女パレアナ」です。パレ

アナは、「いいことさがし」をして、「どんなに辛いときでもどんなに悲しいときでも、なんとか喜び

の種子を見つけよう」とする女の子です。細谷先生も、お医者さんとして働いていると、辛いこと

や、やりきれない気持ちになることが度々です。そんな時、パレアナが教えてくれた「いいことさがし」

をなさるのだそうです。すると、生きることの悲しみに押しつぶされそうになっている先生に感謝の

気持ちが湧いてきて、元気を取り戻し、「大丈夫」という気持ちになれるのだそうです。そして、

だいじょうぶ おも ほんとう たいけん  
「大丈夫」と思っているうちに、本当にそうなるのをいつも体験してこられたようです。

あたら いのち たんじょう でし まえ あらわ  
新しい命に誕生なされたイエス=キリストが、弟子たちの前に現れておっしゃったのは、まさに

だいじょうぶ だいじょうぶ りゆう ひと わたし  
「大丈夫!」です。そして、その「大丈夫」の理由はただ一つ、「私があなたといっしょにいる」からで

わたし いま さま だいじょうぶ き  
す。私たちも、今、このイエス様の「大丈夫」を聞いていたい

だいじょうぶ たん きやす はげ  
ですね。その「大丈夫」は単なる気休めでも、励ましてもない

みな し おも さま だいじょうぶ  
ことを皆さんは知っていると思います。イエス様の大丈夫は、

せかい つく ひとり いのち あた かみさま  
世界を創り、一人ひとりに命を与えてくださった神様からく

ほんとう だいじょうぶ  
る、本当の「大丈夫」なのです。

